



砂浜の漂着物はどこから来た？



漂着物を拾い、広い海を知る

砂浜を歩きながら漂着物を集めましょう。貝や木の実など自然物から異国の品まで様々な物を拾えます。海の広さに気付き、環境問題に接するきっかけにもなるでしょう。

対象 小学生

場所 砂浜

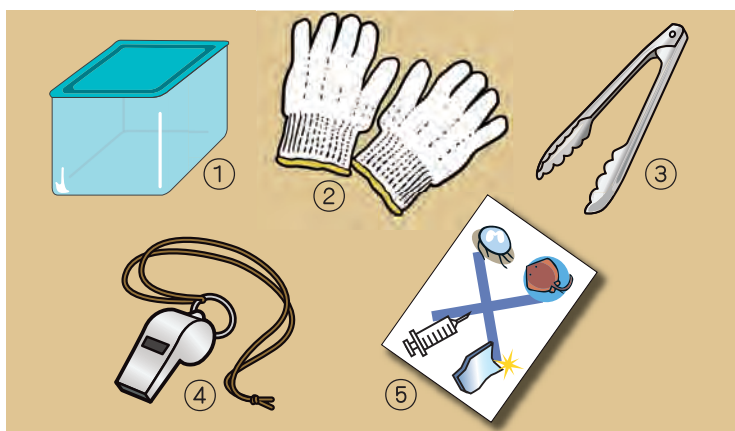
時間 1時間

2. 2人2人の前に...

1. 用意するもの

参加者(人数分)	スタッフ
①袋や容器 漂着物の収集用	④笛や鈴 参加者の集合時に使用
②軍手	⑤解説用品 写真など内容に応じて
③トング	

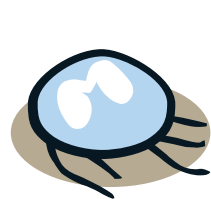
※その他に着替え・帽子・タオル・日焼け止めなど活動のしやすい服装や道具を用意する。



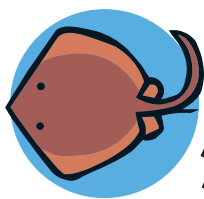
2. 事前の準備

危険を予測しよう

・海には危険な物や生物がたくさんあります。
現場の状況を把握し、危険を避けましょう。



死んだクラゲも毒針が！



アカエイ



注射器



ガラス



投棄されたガスボンベ

範囲を決めよう

- ・実施範囲の確認は必ず行いましょう。
- ・参加者の行動を把握できるように安全管理担当者を置き、参加者が夢中になってもはぐれないように注意しましょう。

プログラムの本番！

1. 参加者にルールを伝えよう！（約10分）

参加者がそろい挨拶を済ませたら、実施範囲と危険物について共有しましょう。実物や写真を使って危険物を説明すると、参加者にも伝わりやすくなります。

2. 漂着物を拾おう！（約30分）

いよいよ漂着物拾いの開始です。スタッフは危険物に気を配りながら、参加者の発見を促してあげてください。安全管理担当者は参加者の行動把握に努めて、はぐれたりする参加者がいないように注意します。終了5分前に予鈴を行うと円滑に集合できます。

3. 漂着物を観察！（約20分）

①並べながら分類しよう！

参加者が集まったら、拾った漂着物を並べながら分類していきましょう。砂の上に線を引き、自然物とゴミや形などテーマを決めて似たようなものが近くに集められるようにします。



②分類したものを観察しよう！

並べ終わったら、参加者と一緒に何が落ちていたかを共有しましょう。進行のスタッフが漂着物の解説を行いながら、観察すると理解が深まるでしょう。



ココがポイント

分類テーマの決め方

色、形、大きさなど分類のテーマによって伝えるイメージが変わります。対象や場所によってよりよいテーマを選びましょう。

季節によって違いが！

漂着物は潮の流れや天候、季節などによって様変わりします。特に台風の通過後は普段とは違うものが打ちあがることも。年間を通して行くと、様々な発見があるかもしれません。

